



徳島市の可動橋、福島新橋

四國の徳島市に新跳上橋竣工 一定不變の動力で動く可動橋

先年四國の坂出町に初めて一の跳上橋が架設された事を報道したが、本年三月下旬また四國の徳島市に簡易な跳上橋が架設された。四國には此で二つの跳上橋が出来たわけだが何れも山本卯太郎氏の特許になるもので、今度の徳島市土木課が架設した福島新橋は可動橋中最も工費の低廉な、然も安全第一の有効なものであると言はれてゐる。

此の可動橋は全徑間 130呎の中に、寫眞に見る様に中央徑間35呎(支間)の部分が可動橋になつてゐて、幅員は15呎である。

本橋の構造と特色を概説すると次の如くである。

本可動橋は左右に配列された二個の主桁上部に特種連幹各三個を配し、此を主桁に桿着し、他の端に針金撚り線の一端に定着せしめ、各連幹は三個共特種抱絡線を算定して此に接線に設置された物で、可動桁がどんなに仰角に置かれても、常に反動錘を(橋桁橋桁の一

端にある廻轉軸の周圍に於て)と平衡を保つ装置であるから、昇降用の動力はすべて一定不變である。且つ他の可動橋に比し、橋桁の廻轉軸と橋體の運轉用鋼索との垂直距離は他橋のラックの半徑に比し、約五倍以上にあるから約五分一の馬力で、終始一定の動力で運轉し得る點は最も合理的であり、また最も經濟的に出来てゐる。

可動中の保安装置も完全に出来てゐるから、昇降共に自働的に停止する、而して其運轉を敏活ならしめ同時に安全ならしめる。

本橋は山本式鋼索形自働平衡跳上橋と稱し又リンク、バランス、パスキユールとも言ひ發明者はすでに日、英、米、獨の特許を得てゐる。

要するに本橋の特色は同徑間の他の可動橋に比し

安全迅速に運轉の出来る事と
水上の交通物を容易に通過せしむる事と
運轉馬力の僅少なる事等である。